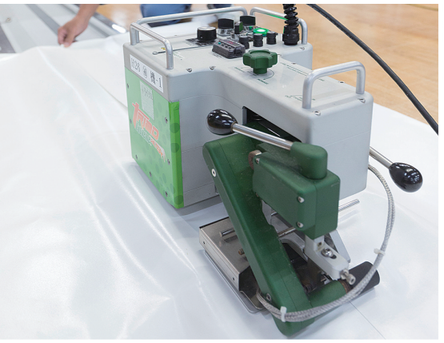
桑田テント 株式会社

▶対 象 類 型　接合・実装、
　　複合・新機能材料
▶事 業 類 型　一般型　試作開発+設備投資
▶主たる目的　商品開発

緊急災害時の被災地における
生活用水の確保・利用の為の設備開発







2
3
4
1

1／試作した車載型の水槽。軽トラックに積載できる350リットルタイプ。狭い路地や山奥の被災地へも安全な飲料水・生活用水を運ぶことができる。 2／導入した自走型コテ式溶着機は、膜材の直線部分の溶着加工に役立つ。レール上をスライドさせながら、熱で膜材を溶着させる。 3／水槽の底部分などの立体加工に必要な熱風溶着機を導入。熱風で生地を溶かしながら溶着し、加工速度も速い。 4／加工機器の導入によって、膜材の安全かつ確実な溶着加工が可能になった。試作した水槽は水漏れの心配もなく、1万リットルの水の重さに耐えることができる。

最高水準の水槽用膜材で、被災地へ安全で安心な水の供給を。

桑田テントは、テントやカバーなど膜体加工物の製造・販売をしている。近年、主力商品である船舶・造船関連の売上が世界的な不況によって落ち込み、売上の変動が激しい状況が続いていた。そこで事業基盤の強化を図るべく、長年培ってきた膜材の接着・溶着技術を駆使し、災害時の被災地において飲料水や生活用水を保管・輸送できる水槽の開発に踏み切った。

既存の飲料水用水槽に使用される膜材は、食品衛生法には合致しているが、添加物等の規制が水道水より緩やかで、水の中に化学物質が溶け込む懸念が残る。本事業では専門家の指導の下、水や湯を溜めても化学物質が溶け出しにくく、安全に水を溜めておける日本初の膜材を開発。子どもからお年寄り、病気の人までもが安心して水が飲めるよう、最高水準の安全性を実現した。さらにこの特殊な膜材を確実に溶着加工できる加工機器を3台導入。これにより車載型や据え置き型、浴槽型の水槽を計4つ試作できた。各水槽はさまざまな状況や規模に合わせて利用できると考えられる。今後はさらに技術を向上させながら水槽を製作し、消防等救助組織、自治体等への提案や販売を積極的に進めていく。

注目すべき成果

高い安全性を有する日本初の水槽用膜材を開発。

今回の事業では、東レやふくい産業支援センターに勤務経験のある芝田清氏から技術指導を受け、水槽用膜材を新たに開発。これは日本で唯一、水道水の基準を満たす膜材であり、性能面で他社にはない強みを得た。

注目すべき成果

災害時にも安全な飲料水・生活用水を供給可能に。

新たな設備の導入と同社の技術力により、輸送に便利な車載型や湯が貯められる浴槽型など、被災状況に応じた水槽を試作開発。災害時の多くのシーンで、清潔で安全な水を迅速かつ大量に供給できる。

今後の展望

膜材を利用し より良い災害用用品の 開発を。

今回開発した膜材により、災害時でも多くの被災者に安全で安心な水を供給可能となった。今後は溶着・製造技術をさらに向上させながら、万が一の事態に貢献できるように、あらゆる種類の水槽の試作開発を進める。

ものづくり専門員から一言

日本で初めて 水道水基準を満たした 膜材開発。

好不況の波が激しい業界で生まれた危機感が、自社技術を活かす“液体を溜める”発想の製品づくりに向かい、生活用水が確保できない災害を目にして“より安全な水”のニーズを感じ水槽用膜材を開発。1万リットルの重さに耐え有機物質が溶け出さない膜は、想像以上に柔らかく、更なる事業展開が楽しみだ。

こんな会社です！

唯一の技術で、あらゆるニーズに対応を。

当社は海洋関連や工場、店舗などに利用されるテントやカバー等の製造をしています。特にほとんどを手縫いで行う船舶の帆の製造技術は日本唯一といわれ、大型帆船である日本丸や海王丸などの帆も手がけてきました。長年培った技術で、あらゆるニーズにこたえるのが当社の強み。今回の事業では、被災地にはより安全な水の供給が大切だと考え、膜材から水槽の開発に踏み切りました。今後も、子どもからお年寄りまで多くの人に受け入れられるような、高レベルな製品の開発に取り組みたいと考えています。



代表取締役
桑田 博敏さん



工場内の様子。基本はミシンを使い丁寧に製品を仕上げていく。社員一人一人の確かな技術力が自慢。



本社・工場

桑田テント 株式会社

代表者／代表取締役 桑田 博敏
設立／昭和3年（1928年）5月
資本金／1,250万円
従業員数／12人
事業内容／船舶関連のカバーやオーニング、
　　工場等のカバーや間仕切り、
　　店舗用テントの製造販売など
〒917-0072 小浜市千種1-1-2
☎0770-52-5055　FAX.0770-53-1700
E-mail info@kuwata-tent.co.jp